

戦略的創造研究推進事業
(社会技術研究開発)
平成30年度研究開発実施報告書

「科学技術イノベーション政策のための科学
研究開発プログラム」

「医学・医療のためのICTを用いたエビデンス創出コモン
ズの形成と政策への応用」

加藤 和人
(大阪大学、教授)

目次

1. 研究開発プロジェクト名	2
2. 研究開発実施の具体的内容	2
2-1. 研究開発目標	2
2-2. 実施内容・結果	3
2-3. 会議等の活動	6
3. 研究開発成果の活用・展開に向けた状況	6
4. 研究開発実施体制	6
5. 研究開発実施者	7
6. 研究開発成果の発表・発信状況、アウトリーチ活動など	7
6-1. シンポジウム等	7
6-2. 社会に向けた情報発信状況、アウトリーチ活動など	7
6-3. 論文発表	8
6-4. 口頭発表（国際学会発表及び主要な国内学会発表）	8
6-5. 新聞／TV報道・投稿、受賞等	8
6-6. 知財出願	8

1. 研究開発プロジェクト名

医学・医療のためのICTを用いたエビデンス創出コモンズの 形成と政策への応用

2. 研究開発実施の具体的内容

2-1. 研究開発目標

本研究では、以下の3つの達成目標を掲げて研究を進めていく。

1. 患者・医学研究者・政策関係者などのステークホルダーが政策形成に有用な指摘や提案を継続的に議論・検討する場、すなわち「エビデンス創出コモンズ」を構築する。

医療政策・医学研究政策に対し、効果的なエビデンスを創出するための熟議の場を作ることが目標であり、大きく分けると2段階で行う。第一段階では、RUDY JAPAN という患者参加型の医学研究を介して直接・間接に繋がった患者と医学研究者とのネットワークを利用し、患者と研究者との熟議およびエビデンス創出を行う場（コモンズ）を構築する。また、少数の政策関係者にも参加してもらい、政策への反映を意識したエビデンスの創出に向けた検討を共に行う。次に第二段階として、患者、研究者、政策関係者の3者の参加を得て、熟議とエビデンス創出を行うための場（コモンズ）を構築する。

2. エビデンス創出コモンズで得られた課題や提案について、多様な視点から評価し、政策への実現可能性を高めたエビデンスを創出すること、およびそのための効果的な手法を開発する。

本研究においては、政策形成に生かせるエビデンスは、「多様な患者の立場や意見をできるだけ客観的に反映した政策形成のための課題の指摘や提案」と定義している。より具体的には、疾患横断的な見方を反映したもの、多様な関係者の視点を総合的に考慮したもの、患者の身体的な面と心理的な面の両方に配慮したもの、といった特徴を持つエビデンスを創出することを目指している。さらには、政策関係者がコモンズに参加することで、政策として実行可能性を高めたエビデンスとすることを目指す。その過程で得られた手法についても研究成果として公表する。

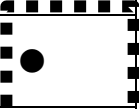
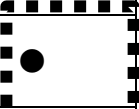
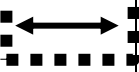
3. 急速に社会に広まりつつある ICT (情報通信技術) を具体的にどのように利用すれば、関係者同士の共創を実現できるかについて検証する。

これまで、患者が集まり意見交換を行う会合などは、東京や大阪などの大都市で開催することが多かったが、ICT を用いれば患者や患者関係者が遠隔地においても参画しやすくなると期待される。スマートフォンの普及は驚くべき広がりを見せており、PCに加え、スマートフォンやタブレット端末を用いて、「エビデンス構築コモンズ」の構築に参加し、エビデンス創出のための活動を効果的に行うためには、どのようなやり方がよいのかを検討する。

2-2. 実施内容・結果

(1) スケジュール

実施項目	2018年度 (6ヵ月)	2019年度 (12ヵ月)	2020年度 (12ヵ月)	2021年度 (12ヵ月)
【第1フェーズ】				
1-1. エビデンス創出コモンズの構築	→			
1-2. ステークホルダーへのインタビュー	←→			
1-3. 各ステークホルダーの問題意識および意見の共有	←→			
1-4. 政策形成へのエビデンス創出(1)(H31)	←→			
【第2フェーズ】				
2-1. オンライン論点抽出ワークショップ(1)		←→		
2-2. フォーラムおよびエビデンス評価(1)		←→		
2-3. 国際シンポジウム(2020年9月)			●	
2-4. 国際誌への論文投稿			●	
【第3フェーズ】				
3-1. オンライン論点抽出ワークショップ(2)			←→	
3-2. 政策形成へのエビデンス創出(2)			←→	
3-3. フォーラムおよびエビデンスの評価(2) ※政策への反映方法の検討含む			←→	

【第4フェーズ】				
4-1. 成果報告シンポジウム				
4-2. 報告書作成				

(2) 各実施内容

平成30年度は、計画全体の中で第1フェーズ（コモンズの構築とステークホルダーの把握）の前半部分に位置づけられる。

平成30年度の到達点①【エビデンス創出コモンズの構築の準備】

実施項目1 エビデンス創出コモンズの構築（前半）

〔実施内容〕

- ・オンライン会議の実施

主に患者が日常生活の中で感じている様々な問題意識をテーマとして、オンライン会議を平成31年3月に実施した。終了後、オンラインアンケートを実施した。

- ・RUDY JAPAN のシステム構築

平成30年10月に、遺伝性血管性浮腫（以下、HAE とする）の患者の RUDY JAPAN への登録の受付を開始した。また、HAE の登録者を対象とした QOL の調査票を実装した。

平成30年度の到達点②【各ステークホルダーの問題意識および意見の把握（前半）】

実施項目2 ステークホルダーへのヒアリング

〔実施内容〕

それぞれの立場における状況や問題意識を把握するためにヒアリングを実施した。

実施項目3 各ステークホルダーの問題意識および意見の共有

〔実施内容〕

平成31年3月に各ステークホルダーが参加する対面式のワークショップを開催した。終了後、オンラインアンケートを実施した。

(3) 成果

平成30年度の到達点①【エビデンス創出コモンズの構築の準備】

実施項目1 エビデンス創出コモンズの構築（前半）

〔実施内容〕

- ・オンライン会議の実施

参加者は患者および患者グループ関係者7名、研究者7名、政策関係者2名の計16名であった。オンライン会議からは、患者が日常生活の中で感じている問題意識が多岐にわたることを共有し、そのような問題がどのように医学研究や政策という観点で取り組まれているのかについて部分的に把握した。終了後に実施したアンケートは9名から回答を得た。オンライン会議を行う際の利点と留意点について、ある程度把握できたが、今後の継続的な調査が必要である。

・ RUDY JAPAN のシステム構築

20 名程度の患者から参加の申請があった。ただし、登録を完了して質問票に回答可能な状況にあるのはその半数程度にとどまり、登録プロセスの改善などが必要と考えられる。また、RUDY JAPAN が対象とする疾患の患者の数名が、本プロジェクトで開催したオンライン会議やワークショップに参加し、意見交換を行った。

平成 30 年度の到達点②【各ステークホルダーの問題意識および意見の把握（前半）】

実施項目 2 ステークホルダーへのヒアリング

[実施内容]

ヒアリングは政策関係者 2 名、患者 1 名を対象に実施した。政策関係者に対するヒアリングでは、政策策定現場でのこれまでの経験を踏まえて、どのようなことが課題か、また、当プロジェクトで創出するようなエビデンスをどのように実際の政策にインプットすることが可能かなどについて、意見交換を行った。また、患者に対するヒアリングでは、改善を期待することや患者視点からの政策に関する問題意識などについて聴取した。

実施項目 3 各ステークホルダーの問題意識および意見の共有

[実施内容]

参加者は患者および患者グループ関係者 13 名、研究者 11 名、政策関係者 3 名の計 27 名であった。各ステークホルダーのメンバーを含むグループをつくり、「現在、患者が抱えている様々な問題」をテーマに、グループワーク（論点抽出ワークショップ）を行った。グループワークを行うことで、お互いの視点を学び合うことができるとともに、各ステークホルダーの視点を盛り込んだ現状の課題とそれに対する必要な取り組みについて整理することができた。その結果については現在分析を行っているところである。終了後に実施したオンラインアンケートは、18 名から回答を得た。そこでは、多様な立場の人が一緒にグループワークを実施する際の進め方についての知見を得た。

(4) 当該年度の成果の総括・次年度に向けた課題

- ・ 研究は概ね計画通り進んでいる。また、オンライン会議やワークショップについては当初計画していた以上の参加者を得た。
- ・ オンライン会議は倫理審査や参加者の調整等に時間を要したため、1回のみの実施にとどまった。また、研究者に対するヒアリングは実施できなかった。これらは 2019 年度に実施する予定である。
- ・ オンライン会議やワークショップの参加者数や時間が限られていることは 1 つの課題である。今後、繰り返しオンライン会議を行っていく中で、ワークショップで得られた結果をもとに熟議を行い、理論的飽和に達することを期待する。

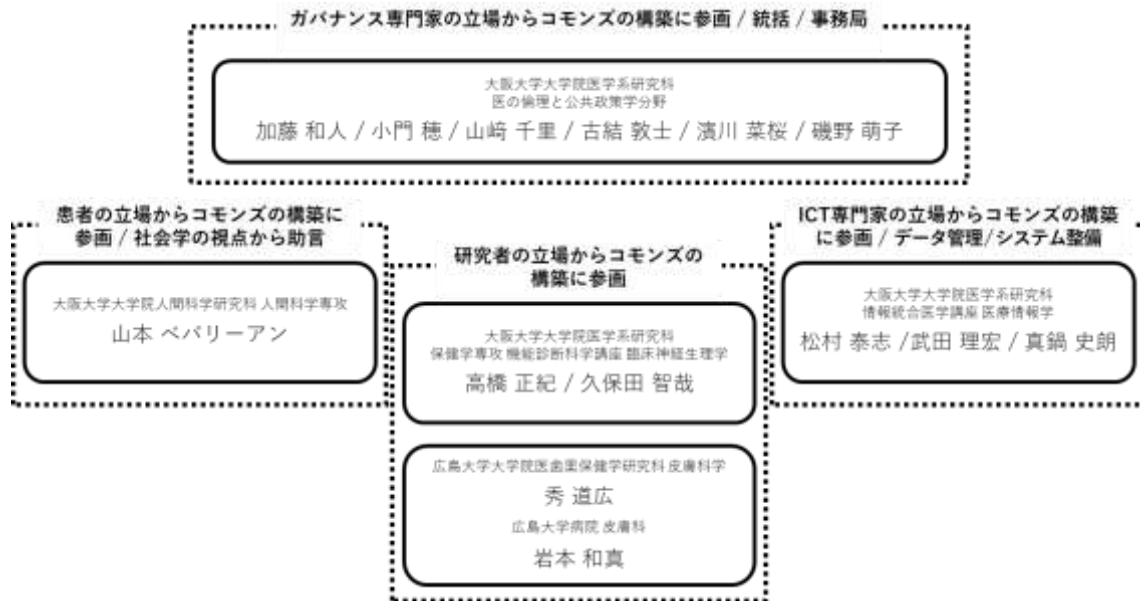
2-3. 会議等の活動

年月日	名称	場所	概要
2018年 10月24日	第1回 研究分担者ミーティング (PJ会議)	大阪大学吹田キャンパス	今後の研究の進め方についての検討
2018年 12月27日	第2回 研究分担者ミーティング (PJ会議)	大阪大学吹田キャンパス	今後の研究の進め方についての検討
2019年 2月19日	第3回 研究分担者ミーティング (PJ会議)	大阪大学吹田キャンパス	オンライン会議、ワークショップの準備

3. 研究開発成果の活用・展開に向けた状況

(該当なし)

4. 研究開発実施体制



5. 研究開発実施者

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職 (身分)
加藤 和人	カトウカズト	大阪大学	大学院医学系 研究科	教授
小門 穂	コカドミノリ	大阪大学	大学院医学系 研究科	助教
山崎 千里	ヤマサキチサト	大阪大学	大学院医学系 研究科	特任研究員
古結 敦士	コゲツアツシ	大阪大学	大学院医学系 研究科	大学院生
濱川 菜桜	ハマカワナオ	大阪大学	大学院医学系 研究科	大学院生
磯野 萌子	イソノモエコ	大阪大学	大学院医学系 研究科	大学院生
山本 ベバリ ーアン	ヤマモトベバリーアン	大阪大学	大学院人間科 学研究科	教授
高橋 正紀	タカハシマサノリ	大阪大学	大学院医学系 研究科	教授
久保田 智哉	クボタトモヤ	大阪大学	大学院医学系 研究科	助教
秀 道広	ヒデミチヒロ	広島大学	大学院医歯薬 保健学研究科	教授
岩本 和真	イワモトカズマ	広島大学	大学院医歯薬 保健学研究科	助教
松村 泰志	マツムラヤスシ	大阪大学	大学院医学系 研究科	教授
武田 理宏	タケダトシヒロ	大阪大学	大学院医学系 研究科	准教授
真鍋 史朗	マナベシロウ	大阪大学	大学院医学系 研究科	特任助教

6. 研究開発成果の発表・発信状況、アウトリーチ活動など

6-1. シンポジウム等

(該当なし)

6-2. 社会に向けた情報発信状況、アウトリーチ活動など

(1) 書籍・冊子等出版物、DVD等

(該当なし)

(2) ウェブメディアの開設・運営
(該当なし)

(3) 学会（6-4. 口頭発表）以外のシンポジウム等への招聘講演実施等
(該当なし)

6-3. 論文発表

- (1) 査読付き (0件)
- (2) 査読なし (0件)

6-4. 口頭発表（国際学会発表及び主要な国内学会発表）

- (1) 招待講演（国内会議 0件、国際会議 0件）
- (2) 口頭発表（国内会議 0件、国際会議 0件）
- (3) ポスター発表（国内会議 0件、国際会議 0件）

6-5. 新聞／TV報道・投稿、受賞等

- (1) 新聞報道・投稿 (0件)
- (2) 受賞 (0件)
- (3) その他 (0件)

6-6. 知財出願

- (1) 国内出願 (0件)
- (2) 海外出願 (0件)